

2 - 3 重点事業評価

事業名 創立100周年記念事業

(1) 事業の概要

- 対象
県民及び県内の各種機関（民間・市町村）

- 意図・目的

大正4年4月1日に「明治記念新潟県立図書館」として創立されて以来、平成27年4月1日で創立100周年を迎えたことから、これまで当館を支えていただいた皆様への感謝の意をあらわすとともに、これからも当館が県民や地域の課題解決に役立ち、心豊かな人生を応援し、地域の発展を支える情報拠点として成長していくことを期して、記念事業を実施する。

- 具体的取組の概要

県民及び各種機関と連携協力し、記念式典・講演会、記念講座・展示、閲覧室内コンサート、利用者参加型イベント（クイズラリー、記念植栽、公募写真展示など）、地域との連携型イベント（地域版ふるさと講座、貴重資料展示など）の実施、記念誌の発行、「課題解決支援文庫」の整備を行う。

(2) 指標①（本年度の目標）

項目（指標）	本年度の達成目標（数値）	成果
地域連携型イベントの実施数	6件	8件(133%)

※参考

// 参加者数 目標：1,700人 成果：2,073人(122%)

指標②（本年度の目標）

項目（指標）	本年度の達成目標（数値）	成果
利用者参加型イベントへの参加延人数	1,600人	1,556人(97%)

※参考

// 実施数 目標：11件 成果：16件(145%)

(3) 事業評価（自己評価）

自己評価	AA	利用者参加型イベントの参加延人数は残念ながら目標を若干下回ったが、地域連携型イベントについては目標を大きく上回る結果となった。
------	----	---

AA 目標が十分に達成された。

A 目標が達成された。

B 目標がある程度達成された。

C 目標の達成が十分ではない。

項目	項目の解説	状況
必要性	利用者ニーズ又は図書館の使命や方針に照らして、妥当か。	地域連携型、利用者参加型ともに、概ね利用者ニーズにあったイベントを開催することができたと考えられる。
有効性	期待される成果と実際の成果との関係。実績の向上がみられたか。	地域連携型イベントは、普段当館との接点の少ない遠隔地の県民の皆様から、当館の歴史に触れていただき、また地域での読書活動推進に携わる図書館関係者とともにこれからの図書館サービスのあり方を考える機会をつくりだすことができた。 利用者参加型イベントでは、利用者の皆様から、イベント参加を通じて当館の歴史や機能、利用マナーへの理解を深め、当館への愛着を持っていただく機会とすることができた。 利用者参加型イベントは目標に達しなかったが、マスコミにも多く取り上げられ、当館のPRにもつながった。

効率性	事業計画に対する内容や量、業務の運び方、進捗管理の妥当性等。	年度途中で職員体制が更に厳しい状況となり、当初予定していた大型イベントを一部中止せざるを得なかった。代わりに、比較的人手がかからず、参加人数が伸び悩んでいた利用者参加型イベントを追加実施して、軌道修正を図った。 各種事業の実施、課題解決支援文庫の整備等が、貸出冊数の増加につながったと考えられる。
-----	--------------------------------	---

(4) 次年度の展開

<p>方向性・問題点・改善点など</p> <p>創立100周年記念誌の編集にあたっては、資料収集に多大な労力を要した。次の記念誌編集に向けて、今後は定期的に資料を収集・整理していきたい。</p>

(5) 図書館協議会意見

<p>全体を通して、内容も実績も高く評価される。協議会委員からは、「利用者へのPR効果があっただけでなく、関係者にとっても県立図書館の果たすべき役割を再認識する上で有意義であったと思う」「県立図書館の役割、立ち位置、今後のあり方などを県民にしっかり伝えたいと思います」「県民に県立図書館の存在を強くアピールできた」「県立図書館の歴史と存在をアピールできるとともに、関わる多くの人たちの満足感を得ることができた」という意見が出されている。また課題解決支援文庫に対しては、「目に見える形で、県民に寄り添う図書館の姿を示したのはすばらしかったです」「利便性の高い企画である」「私の想像以上に成功していた」と評価されている。「職員の人数が少なかった中で、これだけの事業がよくやれたものだ」と驚いた。全力を出しきったと思う」と職員に対する賞賛も表された。年度途中で職員体制が厳しくなるという事態が発生した際に、一部のイベントを中止する一方で、別のイベントを追加した臨機応変の意思決定も注目される。</p> <p>次年度以降は、これらの経験を図書館運営やサービスに活かしていくことが期待される。例えば、課題解決支援文庫の計画的・継続的な充実や、大学や企業をはじめ各種機関との連携事業の実施など、様々な展開を期待している。協議会委員からは、課題解決支援文庫について「新潟県の施策（少子化対策）を後押しする意味から、「婚活」を新たに加える検討を希望します」や「関連する講演会・勉強会を随時開催する」などの提案や、「百周年を記念したロゴマークが作成されたが、恒久的なロゴマークの作成に取り組みれてはいかがか」という意見が出されている。</p>
--